

## 薬学部 加藤愛梨

私は、水田三喜男記念奨学生としてハンガリー・ブダペスト商科大学 (BBS) の学生と「日本とハンガリーにおける学校教育の ICT 化と今後の展望」をテーマにした協働研究を行いました。この短期研修プログラムを通して学んだことについてまとめます。

### 人柄や習慣

日本人は沈黙に対して違和感や苦手意識をもつことは少ないですが、ハンガリーの学生は沈黙に対して苦手な文化があり、積極的に話しかけてくれました。研修中で驚いたことは、ハンガリーの郊外にあるケチケメートに行った際に移動が片道 1 時間以上ある中、絶えず隣の席の学生とお話をしたことです。初対面にもかかわらず、沈黙の時間はありませんでした。ハンガリーの学生にとって人とコミュニケーションを活発にとることは習慣であり日常であると感じました。そのため、研修中の講義においても活発な意見交換や、発言をすることへの積極性が、日本人とは異なりました。ハンガリーに限らないとは思いますが、ベストな回答を導くためには、相手の意見を肯定するだけでなく、自分の意思も発言、提案することが前提にあると体感しました。そのため、日本人の謙虚さは、海外では必ずしも好印象であるとはいえない可能性や興味がないと捉えられてしまうことがあることを学びました。この短期間ではありますが、多くの BBS の学生や、現地の方々と交流したことで、自分自身のコミュニケーション能力に少し成長を感じると同時に自信になりました。しかし、英語力に関しては課題点がたくさんありこの研修をモチベーションとして、語学力の向上を目指します。

### 食文化

事前研修で日本に留学中の BBS の学生に教えていただいたグヤーシュや、パラチンタなどのハンガリー料理を楽しむことができました。パプリカが有名であるため、日本では見たことのない大きさや色のパプリカがありました。料理はパプリカパウダーで味付けされていたり、サンドウィッチやサラダにもパプリカが使われていました。特にパプリカを香辛料、調味料として使われていることに驚きました。また、ハンガリーではパンやパスタの他に芋も主食としてあり、海外の食文化に触れることができました。



今回の研修で背景や文化の異なる人々と交流することで、異文化への理解を深めることができ、同時に自文化の素晴らしさや課題点に気付くことができました。他文化の方とコミュニケーションをとり、協働研究を行った経験は、異文化間コミュニケーションを円滑にする力を養うきっかけとなりました。客観性を持ち自文化および相手文化を理解し、多様な価値観や考え方を受け入れ、尊重することの大切さを実感することで、机上だけでは得られない実体験から多くの学びを得て吸収することができました。この経験を生かし、将来グローバルに活躍することのできる人材となるように努力していきます。

最後に、水田三喜男記念奨学生として本研修に参加し、貴重かつ充実した2週間を過ごすことができました。この場をかりて、本研修に携わっていただいた全ての方々に感謝申し上げます。そして、ハンガリーで出会った先生、友達に感謝したいと思います。ありがとうございました。

